

生徒会 後期会長決まる

高校生徒会長に水田君

中学生徒会長は猪木君

今年後期の生徒会長立候補者は中学が二人、高校が三人で、いずれも立派な公約をかかげ熱の入った選挙戦であった。その結果、高校に水田忠男君、中学に猪木武徳君が当選された。ここでその活躍を期待し、その抱負を語ってもらおう。

沈黙せる空気の一掃

高校生徒会長 水田 忠男

私が洛星高校に編入して来て、すでに一年半。今では、遠い昔の様に思われるが、入学当時の異邦人としての苦しみは、依然として私の脳裡に焼きついて離れない。ただ、毎日のように機械的に繰り返される生活、学校へ来るたびに、私の見たものは、紺一色に塗られた憂うつな顔ばかりであった。なぜ、私がこの生活に苦痛を感じたかは、いろいろの理由がある。私の精神力の弱さゆえであったかも知れない。しかし、それ以上に、環境の激変が考えられる。何となれば、現在私はこの生活にたいして苦痛を感じないからである。すなわち、慣れによって、この苦しみは一応解決されたのである。



洛星回想 ②

しかしながら、これは現在の状態に対する満足では決してない。私の心の中は、まだまだ多くの不満が存在している。これが、会長立候補の一つの動機となったことは事実である。ところで、入学当時の状況から見れば、私が生徒会長になるというものは、全く考え得られないことであった。けれども、実際になってみて、私は、私にできるならばなれようと思う。と、多分ある程度に驚くと共に、一方、ファイトを燃やしている。私が、会長になって行こうとすると、一言でいうならば、生徒会のすべての面における沈黙の一掃

下級のつながりを緊密にする方がより重要であると考えている。今のところ、それに対する具体策はたてていないが、なにより、現在の学年派閥の感情は、無益であるばかりでなく、有害であるから、一切解消してしまいたい。この点については、特に諸君の協力を要する。これが出来ないと、すべてが台無しになってしまうかも知れない。

いろいろな述べて来たが、最後には、特にお願いしておく。

学校との一致協力を

中学校生徒会長 猪木 武徳

「十年以内に所得を増加する」とかいう大きな抱負はもういらないが、何より私の願うところは、「生徒諸君に学校と一致協力してほしい。」ということだ。勿論私達が、敵対と反抗の時期にあり、洛星が私達の理想とする学校に近くないかもしれない。しかし不満があればブツブツ言ってしまうが、それは「協力の精神」で誠心・誠意をもって先生方あるいは学校の方に出れば、受け入れて下さらないはずだ。それなら、またそれがいやなら、私が投票箱の存在を



次に私の欲するものは立合い演説の時に述べた三つのことである。「生徒心得を守れ」——「一問一答」——「残り四ヶ月間に有意

なり皆さんの意見を伝えてもよいと思っている。つまり洛星を学校側・先生側・生徒側の希望とする理想の学校とするには、私達の責任が大であるということをはっきり自覚していただきたい。

またホームルーム活動の件であるが、これを先刻皆さんの前で申しあげた通りである。

もう三十五年度の後期生徒会も四ヶ月しかない。後期の予算もやはり前期同様、大要な財政難をなすべく各クラブの請求した額をだいたい下回る。クラブが増える一方クラブの活動費が少なくなるのが大きな原因をなしている。これは生徒会の大きな悩みである。これは生徒会の大きな悩みである。これは生徒会の大きな悩みである。

洛星 オークストラ 慈善演奏会に協力

来る十二月二十一日、京都府立第一ホールにて「ロケット・シンフォニー」を演奏する。この演奏会は、洛星の音楽部が中心となり、有志の協力によって行われる。この演奏会は、洛星の音楽部が中心となり、有志の協力によって行われる。この演奏会は、洛星の音楽部が中心となり、有志の協力によって行われる。

限らない発展のために

われわれは今どうしたらよいのか

加地 安寛

何と洛星にかきず、学校といふものが学力と人格の養成を目的とするのは当然である。また人格の養成が学力のそれよりも大切であることもわかってきたことである。そして、この二つは互いに支え合っている。学力が人格の養成を助ける。人格の養成が学力の向上を助ける。この二つは互いに支え合っている。学力が人格の養成を助ける。人格の養成が学力の向上を助ける。この二つは互いに支え合っている。

衣笠

一九六〇年も種々の思い出を残して暮れんとした。今年も洛星にも大きな変化があった。中でも特に大きかったものの一つは水田君の活躍である。水田君の活躍は、洛星の歴史に大きな足跡を残した。水田君の活躍は、洛星の歴史に大きな足跡を残した。水田君の活躍は、洛星の歴史に大きな足跡を残した。

第九回

だとは言
もつと、
いやり方
ないだろ
か。この
まで行く
シクレッ
と同じよ
に類魔的
あるとし
廃止され
も文句も
えなくな
だろう。
恒例の各
ラフ展示
は例年と
りばがえ

賞状

山本 武夫 君

貴君が昭和十一年三月に開催された
東京市立第一中学校体育会
の春季運動会に於いて
男子バスケットボール部
のメンバーとして
活躍した事
を表彰する

昭和十一年三月

東京市立第一中学校
校長 山本 武夫

「はいつも考える——そなたのこの心、八神こそ洛星に伝えていかなければならぬものだ。だが、どうして残して置くのか？新聞だ、新聞のみがそれを伝えるのだ。」そこで私は「個意見」る。朝日新聞縮刷版の如きものを作れないだろうか。洛星新聞縮版なものがある。図書館に二から三つあるが、ひとつは皆が気楽に、すぐ眺めるようなのが作れないだろうか。洛星をために——洛星新聞四冊発行に際しに新聞局の諸兄よりこう考へて下さいませんか。

H20 小池曉彦

僕の夢を

すために――洛星を発展させるた
に――洛星新聞四五号発行に際し
新聞局の諸兄よ、ひとつ考えて
下さらぬか――

H2C 小池曉彦

北野中学の巻

ないでもらいたい。

(写真は北野中学玄関)

三	三	二	二	及 び 委 員	工 徒 会
三	三	二	二		
三	A	二	二		
藤	畠	畠	天		
小	林	天	方		
笠					
原					

上紀本	三〇
文化部長	西川 曹田
體育部長	高橋生徒會
會計	會長 水田 忠男
書記	副會長 垣田 行雄
荒木 佐井	
林 大橋	
安井	
富崎	

田	山	村	乗	
一C	一B	一A	中央執行委員	風紀部長
井上	相良	村山		
龍村	三宅	青山		木下
奥	田	上		

三	三	三	二	二	二
C	B	A	C	B	A
大槻	中西	石田	大橋	安井	小宮山
追田	塩見	高木	桜井	野田	末広
			木	小	太

のでもう一つうまく利用されて
なかった。このような質問につ
て研究すべきである。

先生の注意があったからかもしれないが非常に静かであった。やはり出来るのであるから来年こそ静粛をモットーにやりたいものがある。この日も本校のオーケストラ・グリー・両クラブは日頃のたまめ努力の跡を見せてくれた。

第三目の合唱コンクールは、まず、であつたが昨年のように、さげた歌がなかったことはいいとである。問題はシークレットとである。かわりに催された映画会である。画面が小さくて外国映画をやっていると後の方の席では字が見

今年から生徒全員がミサの歌を歌うようになったが、これはミサを理解する上からもミサに参加するということ上からもぜひとも続けてほしいものである。

今年からなくなったシークレッツを復活したいと思っている人もあるところが去年のようなことになるのであったらやりぬ方がいいと思う。

今まで九回の文化祭を参考にし、て来年はすばらしい文化祭を催したいものである。

四日目、この日の合唱コンクールは、運動会に次いで全員出場のものでもあり、またクラス対抗とあって熱演がくり返されて、出演者聴衆共にまじめてあったのはよかったです。午後の映画は字幕がみにくかったためかあまり評判はよくなかったようです。ファイヤーは六時から二時間ばかり苦悶の結晶とも言うべき飾りつけや装置などの燃えつづける火のまわりで扇をくみ歌を歌うという感慨深いものななりました。

や生徒会活動が盛んなように考えられていて生徒は皆クラブに属していると思いがちであるがそうではないらしい。生徒の中には授業が終るたびに家に直行しなければならぬ人もいるので全員クラブ加入とは言えないとのことであり、また生徒会には生徒の数が多すぎて何も活動出来ないというのが本当であるらしい。人数の少ない本校をうらやましく思っておられたようである。本校ではH・Rの時間を多少もあましているようなところもあるようなので北中の



生徒会室の後の壁には黄色とオレンジの二色の生徒会旗が飾られても

A black and white photograph showing a woman sitting on a bench in front of a building with columns. The image is grainy and has a halftone texture.

二A	一C	一B	一A	中央委員	三C	三B	三A	二C	二B	二A	一C	一B	一A
城	秋道	西田	金子	杉村	大槻	相原	塚本	富田	外池	山口	沼田	高岡	山本
神山	荒川	堤	佐々木	蘇	岩井	成瀬	北川	渡辺	河原林	三宅	野川	下出	永田
					吉	妻	和多	小	久	高	且	安	村

[illegible]

中 高 校 生 徒 会

役員及び委員

[illegible]

回皆さんのおっしゃること
も新聞の発行数が少ない
ことも。しかしわずか十二